

WS 1	丸山眞男『戦中と戦後の間』（みすず書房）を読む			
	【定員】 30名 【受講料】 2年・1年会員ともに15,440円 聴講生16,730円			
	【政治・経済・社会】 政治・社会 ワークショップ 【時間】 毎回15時00分～17時00分（計10回）			
概要	昨年度前期の『現代政治の思想と行動』に続き、丸山眞男の『戦中と戦後の間』を読む。学生時代の論文からノーマン追悼の文章までを含む。論点は多岐にわたるが、『現代政治の思想と行動』の旧版と同様に収録の下限が1957年までなのも興味深い。丸山自身がこの年を転期としていたことがわかる。つまりここには丸山が最も輝いていた時期の文章が集められている。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/16(水)	川崎市 生涯学習 プラザ	この本の読み方とワークショップの進め方	信州大学名誉教授 都築 勉
2	4/23(水)		「福沢に於ける秩序と人間」と「近代的思惟」	
3	5/14(水)		「明治国家の思想」と麻生義輝本の書評	
4	5/21(水)		「福沢諭吉の儒教批判」と「陸羯南」	
5	5/28(水)		「日本における自由意識の形成と特質」と「自由民権運動史」	
6	6/4(水)		ラッセル本の書評と「ジョン・ロックと近代政治原理」	
7	6/18(水)		「政治学に於ける国家の概念」と「政治学入門（第一版）」	
8	6/25(水)		「恐怖の時代」と「病床からの感想」と「ファシズムの現代的状況」	
9	7/2(水)		「車中の時局談議」と「進歩派」の政治感覚」と「戦争責任論の盲点」	
10	7/9(水)		「自分勝手な類推」と「断想」と「E・ハーバート・ノーマンを悼む」	
連絡事項	テキスト：丸山眞男『戦中と戦後の間 1936 - 1957』（みすず書房、1976年）。新装版は高価だが、ネットを見ると安価な古書も多く流通する。内容は同じである。丸山眞男を知らない方や『現代政治の思想と行動』を読んでいない方にもぜひ御参加いただきたい。各論文のタイトルは難しそうだが、文章はしなやかな知性の魅力にあふれている。			